

フォーラム

特定非営利活動法人 奈良 21 世紀フォーラム会報

2025年
新春号
No.41

ニュース

◇ 2024 年実施の主な事業

- 4月27日 春日大社奉納蹴鞠の実施
- 6月22日 令和6年度 理事会・通常総会開催
- 10月26日 第15回大仏書道大会の開催
～27日
- 11月 4日 春日大社奉納蹴鞠の実施
- 11月 9日 川上村「山幸彦まつり」に参加
- 11月27日 奈良の歴史文化資源の探訪の実施
「古代ヤマト王権を偲ばせる古墳探訪と長岳寺の
地獄絵解き」



年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年中は会員の皆様方に多大なご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、国内では衆議院議員選挙、国外ではアメリカの大統領選挙、韓国での戒厳令騒ぎなど政局が大きく変化し、ウクライナや中東の紛争が続くなど世界情勢が安定せず、物価高や人手不足は解消されないまま依然として先行きが見通せない状況にありますが、当フォーラムにおきましては、2000年の設立から本年度で四半世紀、設立25周年を迎えることができました。



理事長 植野康夫

設立以来取組んできた「万葉蹴鞠の復元」、「書の文化の伝承」、「県内の歴史文化資源の探訪」、「県内企業の企業文化・企業風土の調査と紹介」、「吉野川源流の水源地の森を守る活動支援」などの事業につきましては、昨年は各関係先のご理解とご協力のもと、4月27日と11月4日に「春日大社奉納万葉蹴鞠」、10月26日・27日に「第15回大仏書道大会」、11月27日に「奈良の歴史文化資源の探訪」などを無事実施することができました。これもひとえに会員ならびにこれら活動にご協力いただいた皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今年の干支は「乙巳^{きのとみ}」。「乙」はしなやかに伸びる草木、「巳」は脱皮を繰り返して成長する蛇を表しています。乙巳にあたる2025年は再生や変化をしながら柔軟に発展していく年と言われていています。当フォーラムの今後の活動につきましても、様々な変化を注意深く見極め、それらに柔軟な対応をしながら事業を展開・推進し、地元奈良を盛り上げる情報発信ができるよう積極的に取り組んでまいります。

会員皆様の変わらぬご理解とご支援並びに各事業への積極的なご参加をお願い申し上げます。

(2025年1月吉日)

令和6年度理事会・通常総会開催

活動実施の方針・事業計画を決定

○令和6年度通常総会の開催

令和6年度の通常総会は、6月22日（土）に奈良ロイヤルホテルにおいて開催しました。総会では、令和5年度の事業報告と決算の承認、令和6年度の活動実施方針、事業計画および予算を決定しました。また、一部理事の変更があり、新たに飯田保之氏が理事に就任され、林信氏が退任されました。

◇活動実施の方針

奈良県の歴史文化とそれを取り巻く自然環境の魅力を再発見し、奈良県の活性化に結びつく提案活動を行う。

伝統的芸能文化として定着しつつある「万葉蹴鞠」の紹介や、奈良県内の伝統行事の紹介のほか、奈良県の観光立県としての持続的な観光振興のための取り組みに積極的に協力する。

そのほか、奈良県に根をおろし、発展し続ける企業の伝統、文化、経営理念と、奈良の風土とのかかわりを調査、記録し、県内で活躍する企業を県内外に紹介する。

まちづくり等を支援する企画事業の提言・提案に関する事業は、川上村で実施される行事等に協力する。



◇令和6年度の事業計画

①「万葉蹴鞠」の復元

県内における伝統的芸能文化として発掘した「万葉蹴鞠」の実演を通して、県民に伝統的芸能文化を啓蒙すると同時に、当県への観光誘致の基礎資源として活用する提案を行う。

②「書の文化」の伝承

県内の地場産業、地域文化を見直し、観光資源として地域活性化に結びつける活動を行う。東大寺の協力を得て大仏書道大会を開催する。全国から作品を募集し、入選作品を大仏殿西回廊において展示。また、大仏殿西回廊において席書会を開催する。

③「奈良県内の歴史文化資源」の探訪

日本人の心の原点をさぐる活動として、奈良県内の神社仏閣をはじめとする文化資源を顕

彰し、新たな視点で紹介する。合せて食文化を発掘し、観光資源として地域活性化に結びつける提案活動を行う。

④「奈良県企業の企業文化、企業風土」の調査、紹介

奈良の風土に生まれ成長するユニークな企業を対象に、製造・製作・展示等の現場や様々な形で社会貢献に励む企業のリアルな姿に触れる機会として、企業見学会を実施する。

⑤「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援

源流の村・川上村で実施される行事に積極的に参加する。森と水の源流館と連携し、川上村の自然、歴史文化を体験するバスツアーの実施を行う。

2024年1月から12月に実施した事業

1. 万葉蹴鞠の保存

◎春日大社奉納蹴鞠の実施

実施日 令和6年4月27日（土）・11月4日（振休）

会場 春日大社林檎の庭および飛火野

4月27日は、10時30分から春日大社奉納蹴鞠行事として、万葉蹴鞠の奉納を「林檎の庭」で開催しました。「林檎の庭」で玉串奉奠など正式参拝した後、古代衣装に身を包んだフリースタイルフットボーラー原拓人さんが蹴鞠を奉納しました。その後、元塚敏彦氏に蹴鞠の解説をいただく中、当フォーラムの万葉蹴鞠チームの鞠足・池田章さん、西園恵次さん、嶋本智之さんも参加し、4人での蹴鞠披露が行われました。4人の鞠足の見事な鞠さばきに、参拝者の方々から大きな拍手と歓声が上がりました。



4月の林檎の庭での奉納



11月の飛火野での蹴鞠競技披露

11月4日は、10時から林檎の庭にて澤田啓二氏に蹴鞠の解説をいただく中、当フォーラムの万葉蹴鞠チームの鞠足、日野智仁さん、高丸久範さんの2人で蹴鞠奉納を行いました。その後、春日大社本殿から隊列を組んで飛火野まで練り歩き、万葉蹴鞠チームの20名が二手に分かれて蹴鞠競技を披露しました。

飛火野での蹴鞠競技披露は5年ぶりの実施で、ラリーが続くと見学者から大きな拍手と歓声が上がりました。

2. 書の文化の伝承

◎第15回大仏書道大会「書くことは楽しい in 奈良」を開催

実施日 令和6年10月26日（土）～27日（日）

会場 東大寺大仏殿西回廊

10月26日（土）から27日（日）の2日間、東大寺大仏殿西回廊に於いて「第15回大仏書道大会」の書道展を開催しました。

当書道展は、平城遷都1300年を記念して始まって以来毎年開催しており、今年で第15回目を迎えました。単なる教科書的な技術だけではなく、自由な感性、創造性や味わい深さな



審査会（朝日新聞社奈良総局）

ども加味し、書の可能性を感じさせるような作品に光をあてる稀有な大会として、全国から毎年多数の応募をいただいています。少子化に伴う生徒数の減少や、パソコン・スマートホンの影響による書道離れなど、作品の減少が案じられましたが、関係する多くの方々のご協力もあり、全国68の高校・大学から1,762点の応募を頂くことができ、前年比較で3校・368点の増加となりました。

同書道展にさきがけ、10月7日には朝日新聞社奈良総局において森本公誠・東大寺長老（当フォーラム理事・特別顧問）を審査委員長に迎え、高校や大学の書道教員の方々に審査に携わっていただき、7点の特別賞と93点の入賞作品を選定しました。

筆で書く楽しさが伝わってくる作品、若者らしい意欲的で希望に満ちた力強い作品など個性を發揮した作品が数多く見られ、今年も外国からの留学生の作品にたいへん優秀な作品が見受けられました。また、優れた作品を多数応募された団体に贈られる奨励賞には、新潟県立新潟江南高等学校、新潟県立新潟南高等学校の2校が選ばれました。26日・27日の両日、受賞作品を大仏殿西回廊に展示し、入選者や学校関係者をはじめ参拝客や観光客の方にも観覧していただき、800名余りの来場を得ました。27日には席書会を開催し、東大寺・森本長老のお話を伺った後、写経と自由題で作品を揮毫。作品は大仏様に奉納しました。



展示会の様子

☆特別賞 7 点の紹介



奈良県知事賞「遠い山々」

遠藤 千怜さん（札幌市立札幌清田高等学校）

余白をあえて作らず文字で紙面をうめるのは意外に難しい技法です。北海道の火山を見ながら育った作者はそれと重なる大仏様のイメージをこの筆技に託しました。

余白に即応しながら、どの字も力強い筆致で書き上げました。

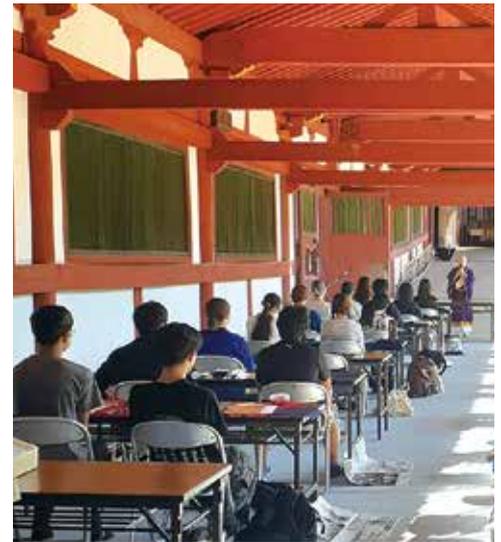


奈良県教育長賞「凹凸人生」

佐藤 樹里さん

（新潟県立新潟南高等学校）

「凹凸」の二文字は、渴筆のある自由な線、大小の変化、二色の彩色により、文字から造形物へと昇華しています。「人生」二文字の横長と縦長の構成、名前の位置や大きさ、さらにわずかな汚れさえ絶妙です。



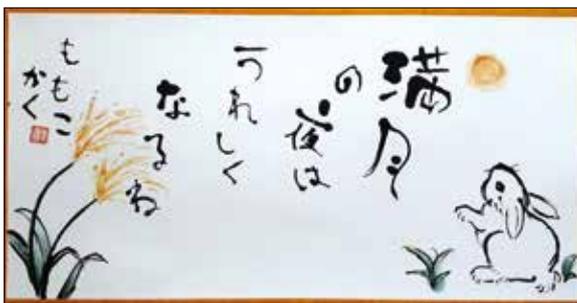
席書会の様子



奈良市長賞「心堅石穿」

大橋 りかさん（名古屋大谷高等学校）

文字は墨ではなく彩墨を用い、名前と星型の型抜きには霧吹きで墨、という逆転の発想と工芸的な技法は新しい試みです。デザイン性に富み、手が込んでおり、まさにクリエイティブ！書表現の可能性を感じさせる作品となりました。



奈良市教育長賞「満月の夜はうれしくなるね」

渡邊 桃子さん（新潟県立新潟江南高等学校）

文字の造形がだれにも真似のできない個性あふれるものです。願いを込めて丸みを意識したそうですが、下部の余白も自然で、作意が感じられないのがいいですね。のどかでかわいらしい世界が紙面に広がり、見る者をほんわか暖かくしてくれる作品です。



東大寺賞「色んな誘惑に負けまい」
ドコヴァ ヨアンナさん (奈良教育大学大学院)

令和の装飾経の逸品といえるでしょう。端正に書かれたお経の文字で大仏様を形造るという他に類のない独創的な構図、周囲の細密な花模様も手書きです。仏に心を寄せ、長い時間を費やした、その姿勢を心から賞賛します。



朝日新聞社賞「拝謝 白米」
木村 莉子さん (大阪府立市岡高等学校)

色を用いず墨のみの書画は新鮮です。淡墨の濃淡の階調をつけた太い線と、その中の柔らかく細い描線がすばらしい。仏様だとわかる白毫、胚芽のくぼみもあり、一粒のお米を大事に思う気持ちが伝わります。今年の世相を反映させた時事水墨画ですね。



奈良 21 世紀フォーラム理事長賞
「心は一切のものを造り出す」
浅野 朔大さん (東大寺学園高等学校)

青墨のにじみを生かして東大寺が拠り所とする「華嚴経」の一節を書いた作品です。墨の産地奈良の古墨の味わいと、大仏様の蓮弁の台座に刻された二体の仏様のやさしい色使いとが相まって華嚴の世界に導かれるような一幅となりました。

3. 奈良の歴史文化資源の探訪

◎古代ヤマト王権を偲ばせる古墳探訪と長岳寺の地獄絵解き

実施日 2024年11月27日(水)

参加者 6名

10時過ぎJR柳本駅に集合。一行は柳本集落を東へと歩き、黒塚古墳(柳本公園)へと向かった。

その前に、近世の柳本について講師から話を伺った。^{しきがみ}式上・山の辺の二部を納めていた織田長益(有楽斎:織田信長の弟)は、その所領を四男長政と五男尚長に分けた。柳本に入った尚長はこの地に藩邸を構えて柳本藩一万石の本拠として、その後、明治4年の廃藩置県まで、この地を治めたこと。現柳本小学校は、かつては、藩邸が建っていた場所にあたる。その藩邸は火災により焼失、再建された。その建物の一部は廃藩置県後も小学校として長く使われていたが、建物は校舎の建て替えに伴い、本陣の書院と玄関が榎原神宮に移され、現在は榎原神宮文華殿として利用されていると。

そして、この藩邸の範囲は、北は黒塚古墳を敷地に取り込み、南は藩主織田家の菩提寺である専行院までを含んだ広範囲であったことなど、柳本城下町の様子を今に伝える『柳本陣屋絵図』に従って、説明を受けた。

黒塚古墳へは、公園西側から、つまり前方後円墳の前方部から入り、墳丘の頂にたたずみ後円部の石室が納まっていた位置に描かれている平面図で、棺の大きさ、被葬者の頭の方などを確認した。全体の俯瞰はできないが周囲が池に囲まれている姿など、古墳が作られた当初の姿をほぼとどめているらしい。隣接する「古墳展示館」で、復元されたリアルな竪穴式石室の内部を見て、みんなは驚きを隠せない様子だった。2階に展示された三角縁神獣鏡は、黒塚古墳から三十三面が出土されている。このことの新聞発表があったとき、卑弥呼が魏^ぎからもらったと伝わる百枚の中のもの?と、興奮した記憶がよみがえった。

それにしても鏡背面に配した神獣が約1800年前のものとは思えないほどくっきり美しく浮き出て、当時の匠の技にあらためて魅了された。しかしこの鏡について、「魏鏡説」と「国産説」は、今なお活発な論争が続いているらしく、そのどちらに与^{あずか}るかによって、その後の古代史が大きく異なってくるという。

次は、山の辺の道沿いにある長岳寺へと向かった。早速本堂に上がるが、壁面に掲げられたおどろおどろしい地獄絵九幅が目



黒塚古墳にて



長岳寺にてご住職の地獄絵繪解き

に飛び込んできた。

その前で、ご住職の繪解きが始まった、一幅目は冥界の入口、墓地。三匹の鬼に出会い、精・魂・魄をとられると人は死ぬと。死んでもここからが大変、まさに地獄の連続となる。険しい山坂を越えていく。そのため死装束は旅姿となっているという。やがて亡者は三途さんずの川へたどりつく。この三途の川を渡る場所が人によって違ってくる。

三福目にあるのは、三途の川とは、冥界と娑婆を分ける川である。その川には生前の罪の軽重により渡る箇所が、上流の激流、中流、下流と三カ所あるので三途といい、この図では初七日までに三途の川を渡るとある。

三福目にあるのは、三途の川とは、冥界と娑

そして、初七日忌。亡者は死後、三途の川を渡り、七日目に初七日忌を迎える。亡者は生前犯した罪科や煩惱により、魂が汚れているので、死後、すぐには成仏しない。魂が浄化され、仏法の教えを受けなければ成仏しないという。そのため四十九日の期間を要する。この間を中陰と言い、この期間中、一週間ごとに都合七回、仏の教えを受け、魂が浄化されていく。そして、第七週目に中陰の期間が満了（満中陰）し、あの世の世界に到達し、成仏する。この間、裁判も七回受け、満中陰には、最終判決も下され、これにより亡者の行先が六道（地獄・餓鬼道・畜生道・修羅道・人間界・天神界）の内、どの世界になるかが決まるという。

これより、話は各道の説明に入るが、我々の時間の都合でここまでの繪解きとなった。

いやはや、死後の世界も大変。ここまでの話だと、ほとんどの人が、地獄行とってしまうほどだ。

本堂をあとにし、境内の丘中腹に安置されている、全長2メートルの石仏を見に行く。実はこれ、古墳の石棺の蓋石に仏さまが彫られているとのこと。この仏さまは、長岳寺周辺に広がる柳本古墳群のいずれかから運び出されたものという。

訪ねた日は11月下旬、今年の紅葉はあきらめかけていたが、本堂前の池の周辺には、思いがけない美しい紅葉を楽しむことができ、みんなはスマホのシャッターを押していた。

この後、天理トレイルセンターのベンチで予約していたお弁当をいただく。

後半は隣接する崇神天皇陵すじんに参拝。事前に配られた資料に基づいて講師より説明を受ける。

「ハツクニシラスメラミコト」、こう呼ばれる天皇が二人存在したこと、実在性が高いといわれる



紅葉が美しい長岳寺

ハツクニシラススメラミコト
「御肇國天皇」、つまり第十代崇神天皇と、ハツクニシラススメラミコト
「始馭天下之天皇」と表記する神武天皇である。

『日本書紀』での和風諡号の「御肇國」とは、「はじめて整った国を治める」という意味があり、日本最初の統一者と考えられている。生没年は詳らかではないが、三～四世紀に存在していたと考えられている天皇で、記紀の伝承の中から、崇神天皇の人物像や成し得た功績などを紹介、そして、即位して間もなく国内に疫病が流行り、多くの人民が亡くなったとき、天皇の徳をもって治めようとしたが難しかった。そこで祭祀で疫病を治めようとした天皇は、それまでの皇居内に合祀していた天照大神と倭大国魂神やまとおおくにたまのかみの神威を畏れて、二神を皇居の外に遷すことにした。天照大神は崇神天皇の皇女の豊鍬入姫命とよすきいりひめのみこと〔初代斎王〕に託して倭笠縫邑やまとかさぬいむら〔現在の檜原神社〕に祀らせた。その後、天照大神は垂仁天皇の御代にその皇女倭姫やまとひめをともなって、聖地を探し求めて落ち着かれたところが、現在の伊勢神宮であることなど。

しかし檜原神社は天照大神が伊勢の地へ遷った後も神績を尊崇し、引き続き大神を祀り、豊鍬入姫命もともに祀っている話など…。そして天皇陵あんどん(行燈山古墳)についても詳しく話を伺った。

晩秋の一日、曇りがちではあったが、穏やかな天候のもと、予定通り行程を終えた。
(N.N記)

4. 「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援 ◎川上村「山幸彦まつり」に参加

11月9日(土)、川上村で「山幸彦まつり」が開催され、当フォーラムから吉田企画委員が参加しました。

川上村やまぶきホールにて開催された第35回山幸彦まつりでは、食品、雑貨、木工品など村内の方が作った品々が並ぶバザーの出店や、野外ステージでの紙飛行機飛ばし大会、やまぶきホールでの歌や楽器演奏、演劇など様々な催しがあり、たくさんの来場者の笑顔と活気があふれるイベントでした。当フォーラムは、今後も川上村並びに森と水の源流館との連携を深め、「吉野川源流の水源地の森を守る活動」の支援を続けてまいります。



山幸彦まつりの様子

役員名簿

(2025年1月1日現在)

職名	氏名	職業(経歴)
理事長	植野 康夫	元(株)南都銀行 特別顧問
副理事長	谷口 宗男	奈良交通(株) 相談役
特別顧問・理事	森本 公誠	東大寺長老
特別顧問・理事	堀井 良殷	公益財団法人関西・大阪21世紀協会 顧問
理事	上野 誠	國學院大學 教授
理事	卜部 能尚	ウラベ木材工業 代表
理事	扇谷 泰之	(株)シードコンサルタント 相談役
理事	花山院弘匡	春日大社宮司
理事	榎木 康雄	新日本料理材料研究会 主宰者
理事	菊池 攻	奈良トヨタ(株) 取締役社長
理事	久保 昌城	竹茗堂 左文 代表
理事	桑原 克仁	近鉄ケーブルネットワーク(株) 取締役社長
理事	小山 新造	小山(株) 取締役会長
理事	澤田 啓二	元東大寺学園中・高等学校教諭
理事	高田 知彦	奈良中央信用金庫 理事長
理事	千原 昌和	元(株)近鉄百貨店 代表取締役専務執行役員
理事	中井 隆男	大和ガス(株) 相談役
理事	中田 紀子	エッセイスト
理事	西川 恵造	(一財)南都経済研究所 理事長
理事	飯田 保之	近鉄グループホールディングス(株) 執行役員
理事	森本 俊一	三和澱粉工業(株) 取締役会長
理事	米田 昭正	KNT-CTホールディングス(株) 取締役会長
専務理事(事務局長)	加古 哲理	奈良交通(株)総務人事部付部長
監事	津山 恭之	東大寺総合文化センター 総長代理
監事	中寫 大	中寫大会計事務所 所長

(50音順)

2025年1月発行

編集 加古哲理

発行 NPO 法人 奈良二十一世紀フォーラム

〒630-8115 奈良市大宮町1丁目1番25号 奈良交通本社ビル 1F